

- 問1 701年に制定された大宝律令などの律令制度において、天皇のもとで国政全般を司る最高機関として設置された名称を次の中から選びなさい。なお、この機関は明治初期の官制改革においても、古代の制度を模範として一時的に再興されました。 (2020年 山形県公立入試 類似)
1. 摂政 2. 老中 3. 太政官 4. 内閣
- 問2 『万葉集』には、家族を残して九州北部の防衛に向かう悲しみを綴った「防人（さきもり）」の歌が数多く収録されています。当時、このように人々が防人として九州へ派遣されることになった歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、西日本一帯の治安が急激に悪化したため。 2. 東北地方の蝦夷（えみし）を服従させるため、西日本の農民を兵士として東北へ送る中継基地が九州に置かれたため。 3. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、日本への侵攻に備えて九州の警備を強化する必要があったため。 4. 元寇（モンゴルの襲来）が発生し、沿岸部での石築地（元寇防壁）の構築に大量の労働力が必要となったため。
- 問3 律令国家が「班田収授法」を定め、戸籍に基づいて6歳以上の男女に口分田を与えた目的と、その背景にある仕組みの説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
1. 農民を土地に結びつけて確実に把握し、租などの税を安定して徴収するため。 2. 貴族や寺社に広い私有地を与え、地方の開墾を効率的に進めさせるため。 3. 能力の高い農民に多くの土地を優先的に配分し、農業の生産性を高めるため。 4. 土地の売買を自由化することで流通を活発にし、国家の財政を潤すため。
- 問4 奈良時代の都である平城京は、海から離れた内陸に位置していましたが、発掘調査で見つかった木簡などの記録から、各地の海産物などが大量に運び込まれていたことが分かっています。都にこのような各地の産物が集まった理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 大分県公立入試 類似)
1. 収穫した稲の3%程度を、地方の役所に貯蔵する仕組みがあったため 2. 地方の役所で働く代わりに、10日間の労働を都で行う義務があったため 3. 防人として九州へ派遣される兵士が、食料として持参したため 4. 地方の特産物を都へ納める「調」という税制が定められていたため
- 問5 663年の白村江の戦いで敗れた後、大和政権は大宰府を守るためにその周辺の防衛を強化しました。この時、大宰府の北側に築かれた、巨大な土塁と堀を持つ防衛施設を何と呼びますか。 (2017年 広島県公立入試 類似)
1. 多賀城（たがじょう） 2. 鴻臚館（こうろかん） 3. 水城（みづき） 4. 吉野ヶ里（よしのがり）
- 問6 奈良時代に造営された平城京の特徴について述べた文として、最も適切なものを次のうちから1つ選びなさい。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
1. 足利義政によって建てられ、東山文化の代表的な建造物として知られている。 2. 唐の都である長安を手本とし、南北と東西に基盤の目のように道路が整備された。 3. 大和政権の王や豪族の権力を示すために造られた、巨大な鍵穴のような形をした墓である。 4. 江戸時代に各藩が年貢米や特産物を売却するために大阪などに設置した施設である。
- 問7 班田収授法によって人々に分け与えられた「区分田」という土地に関して、その仕組みと税負担の関係を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
1. 土地の面積に応じて、収穫した稲の一部を納める「租」という税が課された。 2. 開墾した土地を永久に私有することを認める代わりに、高い税が課された。 3. 都で働く労役の代わりに、布を納める「庸」という税が課された。 4. 地方の特産品を都まで運んで納める「調」という税が課された。
- 問8 7世紀後半から8世紀にかけて、大化の改新から始まった改革の流れを受け、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くために整えられた、法体系に基づく政治形態を何と言いますか。 (2017年 秋田県公立入試 類似)
1. 律令政治 2. 摂関政治 3. 立憲政治 4. 武家政治
- 問9 聖武天皇が全国に国分寺・国分尼寺を建立し、東大寺に大仏を造営した政治的な意図として、最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. 僧侶を政治の要職に就け、貴族の影響力を完全に排除しようとした。 2. 仏教の力によって国家を護り、疫病や社会の混乱を鎮めようとした。 3. 遣唐使の派遣を停止し、日本独自の新しい宗教を創設しようとした。 4. 地方の豪族から土地を取り上げ、寺院に寄進させることで天皇の権力を示した。
- 問10 奈良時代の律令制度において、兵役の義務を課された農民のうち、唐（中国）や新羅（朝鮮半島）といった国外からの侵攻に備えるため、現在の福岡県を中心とする地域へ国防のために派遣された人々を何と呼びますか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)
1. 防人 2. 郡司 3. 遣唐使 4. 衛士
- 問11 奈良時代、律令国家の体制が整う中で、中央政府が地方の実績や資源を把握するために各国に命じて作成させた、地域の自然、産物、伝説などを記録した報告書を何と言いますか。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
1. 日本書紀 2. 古事記 3. 風土記 4. 万葉集
- 問12 律令国家の税制において、国家が「口分田」を農民に貸し出す代わりに、「租」を徴収する仕組みを維持するために最も重要視された基盤はどれですか。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)
1. 貨幣経済を浸透させ、稲ではなく銭で納税させること 2. 戸籍を作成し、一人ひとりの年齢や性別を把握すること 3. 関所を設置し、各地の特産品が都へ運ばれるのを管理すること 4. 大規模な寺院を建立し、僧侶に土地の管理を委託すること
- 問13 奈良時代の仏教政策において、唐から鑑真が招かれた主な目的と、その後の影響について述べた文として最も適切なものはどれですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
1. 困窮する人々のために橋の建設や社会事業を行い、民衆への布教を直接促すため 2. 比叡山に延暦寺を建立し、天台宗の教えによって国家の安泰を図るため 3. 正しい戒律を伝えて僧侶の資格を厳格化し、律宗を広めて仏教界の秩序を整えるため 4. 真言宗の教えを広めることで、貴族だけでなく広く地方の武士にも信仰を浸透させるため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 太政官	律令制度において行政の最高責任を担った太政官は、明治維新後の新政府でも再び採用されました。これは新政府が、天皇中心の政治を目指す上で、かつての律令国家の仕組みを理想的なモデルとしたためです。1885年に内閣制度が発足するまで、この太政官が最高機関としての役割を果たしました。
問2	答え 3 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、日本への侵攻に備えて九州の警備を強化する必要があったため。	7世紀後半、日本は「白村江の戦い」で唐・新羅の連合軍に敗北しました。これにより、大陸側からの報復や侵攻を恐れた朝廷は、九州北部に大宰府を置き、山城（水城など）を築くとともに、東国などの農民を「防人」として徴用し、九州沿岸の警備にあたらせました。万葉集に収められた「防人の歌」には、重い負担や家族と離れる悲しみが切実に詠まれており、当時の対外緊張と民衆の苦難を裏付ける資料となっています。
問3	答え 1 農民を土地に結びつけて確実に把握し、租などの税を安定して徴収するため。	律令国家にとって、土地と人民を直接支配する「公地公民」の原則は、国家財政を維持するための根幹でした。戸籍によって一人ひとりの人民を把握し、口分田を与える代わりに「租（収穫した稲の約3%）」などの税を課すことで、国家の収入を安定させる狙いがありました。そのため、私有地を増やすことや土地の自由な売買は、当初の律令制度の目的とは相反するものでした。
問4	答え 4 地方の特産物を都へ納める「調」という税制が定められていたため	古代の税制である「調」は、各地の特産品を中央政府に納める制度でした。これによって、内陸部にある都にも全国から布や魚介類、塩などが集まり、国家の財源や役人への報酬、儀式の供え物として利用されました。選択肢にある「稲を納める（租）」や「労働の代わりに布を納める（庸）」、あるいは「防人」などの制度と区別して理解する必要があります。
問5	答え 3 水城（みづき）	白村江の戦いでの敗北後、唐・新羅連合軍の侵攻を恐れた朝廷は、九州の防衛を急ぎました。外交・行政の中心地である大宰府を守るため、その北側に「水城」という大規模な堤防（土塁と堀）を築き、さらに周囲の山々には大野城などの朝鮮式山城を建設して、防衛体制を整えました。多賀城は東北地方の拠点であり、鴻臚館は外交使節の宿泊施設です。
問6	答え 2 唐の都である長安を手本とし、南北と東西に碁盤の目のように道路が整備された。	平城京は唐の長安にならって作られ、碁盤の目のように整然とした街並みが整備されました。その他の選択肢は、銀閣、前方後円墳、蔵屋敷の説明となります。
問7	答え 1 土地の面積に応じて、収穫した稲の一部を納める「租」という税が課された。	班田収授法で貸し与えられた区分田には、面積に応じた税負担が設定されていました。これが「租」であり、収穫した稲の約3%を納める義務がありました。一方で「庸」や「調」は、土地ではなく、成人男性などの「人」に対して課された税であり、区分田の有無とは別の基準で徴収されていました。
問8	答え 1 律令政治	大化の改新によって土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則が示され、その後、中国（唐）の制度を参考に「律」と「令」という法律が整備されました。これにより、法に基づいた組織的な統治が行われるようになりました。武家政治は鎌倉時代以降、立憲政治は明治時代以降、摂関政治は平安時代の中期に見られる形態です。
問9	答え 2 仏教の力によって国家を護り、疫病や社会の混乱を鎮めようとした。	当時の日本は疫病の流行や政情不安に直面しており、聖武天皇は仏教の教えによって国を平和に導こうとする「鎮護国家」の思想に基づき、大仏造営などの大規模な事業を行いました。これは単なる個人の信仰ではなく、国家的な危機の克服を目的とした政策でした。
問10	答え 1 防人	大化の改新以降の律令国家では、成人男性に兵役の義務を課しました。その中でも特に、白村江の戦いでの敗北後、大陸からの攻撃に備えて九州北部の要所に配置された守備兵を「防人（さきもり）」と呼びます。多くは東国から徴集され、遠い任地へと向かう過酷な負担を強いられました。
問11	答え 3 風土記	律令政府は地方を統治するにあたり、各国の地名の由来や土地の肥沃さ、産出される産物、さらには古くから伝わる伝承などを調査し、報告させる必要がありました。こうしてまとめられた地理書は「風土記」と呼ばれ、現在は出雲国（島根県）のものがほぼ完全な形で残っているほか、数力国の内容が今日に伝わっています。
問12	答え 2 戸籍を作成し、一人ひとりの年齢や性別を把握すること	「租」を確実に徴収するためには、誰にどれだけの面積の口分田を与えるべきかを正確に判断する必要があります。そのため、政府は「戸籍」を作成して民衆の性別や年齢を把握し、それに基づき「班田収授の法」を運用しました。この人身把握の仕組みが律令国家の財政を支える根幹となっていました。
問13	答え 3 正しい戒律を伝えて僧侶の資格を厳格化し、律宗を広めて仏教界の秩序を整えるため	当時の日本では、税を逃れるために勝手に僧侶を名乗る者が増えたことが社会問題となっていました。そのため、国家は唐から高僧である鑑真を招き、正式な儀式（授戒）を経て僧侶となる仕組みを確立させました。これにより、仏教界の質と規律が向上しました。なお、天台宗は最澄、真言宗は空海、社会事業は行基に関連する内容です。